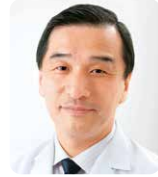


● 糖尿病治療の最前線 ●

# 糖尿病とうつ病の 悪しき相関関係

定年退職後の環境の変化でうつを発症したHさん

担当医



久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医  
医療法人財団百葉の会 銀座医  
院 院長補佐・抗加齢センター長

患者氏名	H・S 様	年齢	61歳	性別	男性	現病歴	糖尿病 糖尿病神経障害
------	-------	----	-----	----	----	-----	-------------

Hさんは40代のとき勤務先の健康診断で糖尿病を指摘され、以来飲み薬で長く治療を続けておられました。60歳を迎えるあたりから神経障害の合併症が始め、しびれなどの違和感だけでなくめまい、不眠といった不定愁訴に近い症状にも悩まされてきたようです。

大きな変化が起きたのは、定年退職扱いで子会社へ転籍されてからです。地方だったので現地の医師に紹介状を書きそちらで診てもらっていたのですが、あまり体調が思わしくなかつ

たとのこと。子会社の境遇が良くなかったことでストレスが溜まったのでしよう。ますます症状がひどくなり、ついにはうつ病を発症されたと伺いました。

その後の経過は存じ上げませんが、糖尿病の方もかなり悪化したのではと推測します。なぜなら、うつ病の患者さんの20〜30%に糖代謝異常が見られる一方、糖尿病の患者さんの20〜30%にうつ病があるというデータがあるからです。

糖尿病がある方で、原因が思い当たらない体の不調ややる気のなさ、不眠などが続くようでしたら、うつ病を疑ってみることも必要かもしれません。適切な治療を受けることで、糖尿病の悪化も防げるものと思います。

心の病は自分ではなかなか見極めるのがむずかしいものです。それだけに、私たち医師や家族がしっかりとご本人を見守ってあげることが大切だと実感しました。